

Dialog

世田谷区民合唱団 会報 Vol. 168

2024年3号、2024年11月発行



世田谷
芸術百華

世田谷区民合唱団 第32回 定期演奏会

2024年 9月29日(日)

15:00 開演 (14:15開場)

世田谷区民会館ホール



世田谷区民合唱団の二大イベントのひとつ、定期演奏会が終わりました。

団員参加者 98 名 (ソプラノ 45 名、アルト 29 名、テノール 12 名、ベース 12 名)

来客数 682 名で、いつもの様に盛大なコンサートとなりました。



■ 世田谷区民合唱団運営委員長 神保 仁士 (じんぼ とよし)



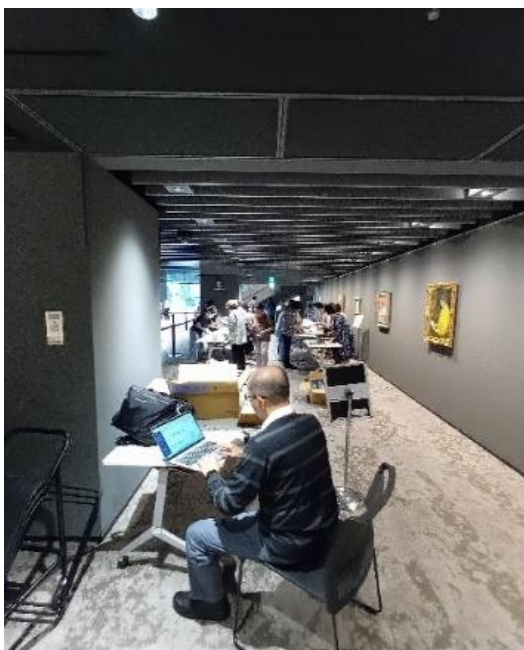
本日は世田谷区民合唱団の定期演奏会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。地域に根ざし、親しまれる合唱団を目指しその活動が今年で 36 年目を迎えます。これもひとえにご来場の皆様方を始め、常日頃から活動にご協力頂いている関係各位の温かいご支援の賜と感謝しております。

今年から漸くホームグラウンド世田谷区民会館ホールでの演奏会が叶いました。この場に戻るのに世田谷区民会館の改修工事とコロナ禍により 4 ヶ年の歳月を要し、団員にとっても待ち焦がれた演奏会となりました。コロナ禍では声を出す、集う、密集することが制限され、合唱活動にとっては致命的な事態となっておりました。それでもなお再会して声を合せて歌うことに望みを抱き続けてきました。さらに幾多の場所で自然災害が発生し、離別と再会が繰り返されていますが、このような状況下にあっても皆様をお迎えして演奏会が開催できることは非常に大きな喜びであります。「コロナ禍に希望の光を灯した作品集」では感謝と希望の思いをお伝えできれば幸甚でございます。その他にフォーレの没後 100 年を記念して「レクイエム」と、当団が大変お世話になった林光先生の追悼 10 周年記念として「日本抒情歌曲集」を演奏いたします。ご来場の皆様には最後までごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

最後に今回の演奏会の開催に当たりご支援いただきました世田谷区生活文化政策部文化・国際課、せたがや文化財団音楽事業部の皆様方に厚く御礼申し上げます。

★団員当日開演前の様子です★

お役のある方は朝 9 時集合、様々なチケット購入の観客がスムーズに席につける様、机他配置の準備、そして 1000 人分となるプログラムへのチラシやアンケートの挟み込み作業 1 時間、全団員 10 時半には集合し、山台と舞台の設置、そして発声・リハーサル・入退場練習と続き、あっという間に昼食時間です。着々と時間は過ぎ、着替えを急ぎ、楽譜を持ってステージ入口へ移動、時計を見ると開演 5 分前でした。



パソコンで仕事、広報委員長三留さん
奥はプログラムへの挟み込み作業 9 時半～



上 2 枚はゲネプロ時の会場



上 2 枚は当日の発声



団員募集など受持ち仕事での女性団員 4 名

☆演奏会は、来賓席に来て下さった、世田谷区長の挨拶で始まりました☆



第Ⅰステージは坂本先生指揮で フォーレの「レクイエム」です。ピアノは西谷先生。



ソプラノソロ バリトンソロ 指揮
嵐田美穂先生 杉山範雄先生 坂本秀明先生

没後 100 周年記念



第Ⅱステージは、
「コロナ禍に希望の光を灯した作品集」
杉山先生の指揮
尾島先生のピアノで歌います。

「コロナ禍に希望の光を灯した作品集」

ハミングのためのエチュード (信長 貴富 作曲)
ボクはウタ (江村 美紀 作詞/信長 貴富 作曲)
群青 (南相馬市立小高中学校平成 24 年度卒業生 作詞/
小田 美樹 作曲/信長 貴富 編曲)
ほらね、(いとうけいし 作詞/ まつしたこう 作曲)

指揮： 杉山 範雄
ピアノ： 尾島 紫穂

G. フォーレ 作曲 「レクイエム」 作品 48

Gabriel Faure "Requiem" Op.48

1. Introitus et Kyrie (入祭唱とキリエ)
2. Offertorium (奉献唱)
3. Sanctus (感謝の讃歌)
4. Pie Jesu (慈悲深いイエス)
5. Agnus Dei (神の子羊)
6. Libera me (私を解き放ちたまえ)
7. In Paradisum (天国にて)

指揮： 坂本 秀明
ソプラノ： 嵐田 美穂
バリトン： 杉山 範雄
ピアノ： 西谷 幸子





第三ステージは尾島紫穂先生、西谷幸子先生によるピアノ4手連弾演奏で始まります。
最初の曲は春がきて桜が咲いて



2曲目の初秋から秋へで団員入場です。



中田 喜直 作曲 4手連弾のための組曲「日本の四季」より
春がきて、桜が咲いて
初秋から秋へ

ピアノ連弾： 尾島 紫穂 西谷 幸子

林 光 追悼10周年記念

林 光 編曲 「日本抒情歌曲集 2」より抜粋
叱られて（清水 かつら 作詞/弘田 龍太郎 作曲）
野の羊（大木 惇夫 作詞/服部 正 作曲）
鈴をおさめて（時雨 音羽 作詞/中山 晋平 作曲）
曼珠沙華（北原 白秋 作詞/山田 耕筈 作曲）
ペチカ（北原 白秋 作詞/山田 耕筈 作曲）
早春賦（吉丸 一昌 作詞/中田 章 作曲）

指揮： 坂本 秀明

ピアノ： 尾島 紫穂 西谷 幸子



日本抒情歌「林 光 編曲」



アンコールは初代音楽監督の故坂本博士氏が作曲して下さった『鶯草讃歌』です。





★坂本先生、プログラムで来客者への挨拶文です★

■ 音楽監督・常任指揮者 坂本 秀明（さかもと ひであき）



本日は第32回定期演奏会にお越しくださりありがとうございます。おかげさまで当団は今年創立36周年を迎えることができました。これも世田谷文化財団の皆様、団員の方々、支えてくださっている御家族、スタッフの皆様の御理解、御協力があつてこそのことと感謝申し上げます。

さて私は音楽監督に就任して（コロナによる2年半の活動休止がありましたが）6年目を迎えます。その間、様々な経験をさせて頂きました。中でも日本を代表する指揮者、黒岩英臣氏や尾高忠明氏と共演し、指導法を目の当たりに体験出来たことが大きな収穫となりました。この経験をいかして大人数の合唱にふさわしい演奏表現、お客様に楽しんで頂けるようなインパクトのある演奏を目指していきたいと思っております。

今年はリニューアルされた世田谷区民会館で演奏できる喜びを胸に精一杯頑張りますので、どうか最後まで温かく見守っていただけたら嬉しいです。



★そして、終了後の坂本先生より団員へのお言葉、メッセージです★

世田谷区民合唱団第32回定期演奏会の反省点



音楽監督 坂本秀明

皆様、大変お疲れ様でした。

今回はまず、私達のホームグラウンドである世田谷区民会館ホールがリニューアルされ、素晴らしい環境で演奏出来たことに喜びと感謝をしております。

さて、まず第1ステージのフォーレですが、通し稽古、ゲネプロと急に調子が上がってきたので私も少し期待してしまったのですが、本番は付け焼き刃的な弱点がモロに出てしまい、全体的に音程が下がってしまいました。来年2月にはリベンジしたいと思っています。

そのための手段を2通り提案させていただきます。

①第九のように全員暗譜で歌うこと。

②全員オーディション制にする。

このどちらかを実行して欲しいと運営委員会に提案いたしました。運営委員会の御判断に委ねたいと思います。

第2ステージは水を得た魚のように皆さん生き生きとして、とても良い演奏だったと思います。杉山先生、尾島先生に感謝いたします。

第3ステージも難しい編曲ではありましたが、郷愁を誘う心のこもった演奏だったと思います。ソロを努めてくださった5人の皆様、さぞ緊張されたと思いますがよく頑張ってくださいました。とても良かったです。

今回の反省点はまず、定期練習の出席率の低さです。本番直前の出席率、集中力が、音取りの段階からあれば、もっと良い演奏になったと思います。

さて次回の定演はマドリガルからスタートし、「みえないことづけ」、「ウィーンの森の物語」、「皇帝円舞曲」とワクワクするプログラムが決まりました。少しでも楽しく効率の良い練習を心掛けていきますので皆様どうか御協力の程よろしく願いいたします。



定期演奏会、第1ステージ「レクイエム」で バリトンソロ の素敵な歌声を披露して頂き、第2ステージでは「ハミングのためのエチュード」から始まり、「ボクはウタ」「群青」「ほらね、」と指揮をして下さいました。

また、8月真夏の酷暑の中、東京都合唱祭で指揮をして下さった杉山先生からの言葉です。



第32回定期演奏会

指揮者、バリトンソロ、ヴォイストレーナー 杉山 範雄

2019年11月第29回定期演奏会で世田谷区民合唱団の皆さんとの初ステージを果たし、さあ、これからだ！と思っていた矢先に、世の中はコロナ禍に突入…歌・合唱は不要不急の存在となり、仕事が歌と合唱メインの私は完全な「無職」となったため、唯一男性スタッフを募集していた近所の高級食パン屋でのアルバイトを本気で考えた時期がありましたが、小学校1年生が6年生にまでなるほどの月日が流れて…やっと「世田谷区民会館」の舞台に再び立つことが出来、しかも9月にオープンしたばかりの出来立てホヤホヤを使わせて頂けるのは、行政の恩恵は素晴らしいですね。

今回、フォーレ「レクイエム」のバリトン・ソロをやらせて頂いたこと、心より感謝申し上げます。去年は「ドイツ・レクイエム」のソロをやらせて頂きましたが、傾向的に重厚な声質が求められます。今回のフォーレは繊細で柔らかく透明度の高い音質が求められ、今回私なりに音色を吟味して演奏させて頂きました。合唱パート、フォーレ独特の和声・旋律の譜読みは、さぞ大変だったことでしょう。フォーレはベートーベン、ブラームスのような深くて鳴りの強い声でなく(中にはそういう声が必要な箇所はあります)、柔らかで繊細、透明度の高い音質で歌われると、作品の持つ要素が出せるのではないかと。その音質で正しい音程が出せるよう、2月に向けて頑張ってください！

今回の私のステージは、「ユニゾンが多く、取り組みやすい楽曲」をメインにしましたので、取り組みやすかったのではないのでしょうか？一番難しかった「ハミングのためのエチュード」は、皆さんの努力のお蔭で何とか形になって、B+Cの終始音も少しの誤差だけで済みました(笑)ボクはウタ、群青、ほらね、各々詩の内容を理解しながら音色づくりをしました。どのような状況で言っているのか、その言葉の裏には何があるのか？詩をきちんと理解できれば、どのように歌えばよいか自ずと見えてきたのではないのでしょうか？フォーレでも是非、言葉の意味を理解して、その言葉に沿った音色が出せるようになりましょう。

往年の名曲を歌いつつ、今流行りの楽曲を取り組むことで、入団を希望する世代の間口が広がるのでは？と思い、これからも新しい曲をちよくちよく取り上げていきたいと思います。次回の三宅悠太先生の「見えないことづけ」も、是非詩の内容を理解して、ナウい楽曲を楽しみましょう。



第79回 東京都合唱祭参加

杉山 範雄

定期演奏会以外で、世田谷区民合唱団との本番を今回初めてやらせて頂きましたが、1曲を煮詰める練習がとても楽しく、色々な発見があり、練習を重ねるごとに有志の皆さんとの距離が近く感じられたことは、私にとって嬉しい瞬間でした。何より、ご参加くださった有志メンバーの熱意にとても感激しました。

今回、合唱祭の選曲するにあたり「ほらね、」も候補にあったのですが、ピアノを担当して下さった尾島先生にお伺いしたところ、「ボクはウタの方が楽しい」とのご返答を頂き、「ボクはウタ」を取り組むことにしました。用意して下さった練習会場のホールの響きが良いすぎて、音程がハマらなくても上手に聞こえてしまうところに若干不安を感じましたが、参加して下さった有志の皆さんは根気強くついてきて下さり、ハマらなかった和音が鳴らせるようになったり、私のイメージする音色が出せるようになったり、ピアノの尾島先生からもアドバイスを頂き、曲の完成度を上げる作業は本当に楽しかったです。数回の練習でしたが、本番では誰もが良い顔で「こう表現したい」という熱い想いをアピールすることが出来、講評の先生、聴衆の方々にそれが届いていたこと、何よりの励みとなりました。色とりどりの衣装にしたことも、舞台が晴れやかでとてもよかった(自画自賛)。ご参加くださった有志の皆さん、素晴らしいピアノを奏でてくださった尾島先生、今回このような機会を与えてくださった芸術監督の坂本先生に、心より御礼申し上げます。



「レクイエム」でソプラノソの美声を会場全体に響かせて下さった、嵐田先生からのお言葉です。



ソプラノソ、ヴォイストレーナー 嵐田美穂

この度は定期演奏会のご盛会誠にありがとうございます！皆様と今年も同じ舞台に立てましたこと、とても幸せです。そして、お腹の中の子と迎える特別な本番でもありました。練習の時から皆様に沢山のお気遣いをいただき感謝ばかりです。

今回も曲数も多くそれぞれカラーの違う曲目を歌いこなすのは準備がとても大変だったと思いますが、その甲斐があり、大成功の演奏会でしたね。

フォーレのレクイエムでは、坂本先生の洗練されたご指導に応え、P から F まで程よい緊張感とともに、素晴らしい響きを奏でていらっしゃいました。ホールの助けもあって、お客様を包み込む素敵な演奏でした。私も皆様の演奏を聴きながらソロを歌わせていただき、坂本先生、西谷先生と皆様が作り上げてくださったあの神聖で温かな世界観、いただいたバトンを次の楽曲に繋げるという幸せな一時を過ごせましたこと、私の大きな財産です。杉山先生の力強く洗練された歌唱を間近で拝聴できましたことも、私にとって宝物です。

コロナ禍に希望を灯した作品集では、杉山先生に導かれ、フォーレの厳かな皆様の歌声とはガラリと変わり、皆様が青春真っ只中の学生に見えました。つい口ずさみたくなる軽快なメロディーは青春の音に溢れていました。

日本抒情歌曲集では、聞き慣れた日本歌曲を楽しみながら、ソロの皆様の立派な歌声に驚きました。細かな歌詞捌きや表現がしっかりされており、スマートな演奏になっていたと思います。また次回の演奏会もとても楽しみにしております。

最後に、10月15日に元気な男の子を出産致しました。少し早めの出産でしたので、まだ小さめですが元気にすくすく育っております。陣痛から1時間20分ほどとお医者様がびっくりするほどの超安産で、お陰様で母子共に健康ですので、また早く皆様とご一緒できますこと楽しみにしております。引き続きどうぞ宜しくお願い致します！



嵐田美穂先生 ♥

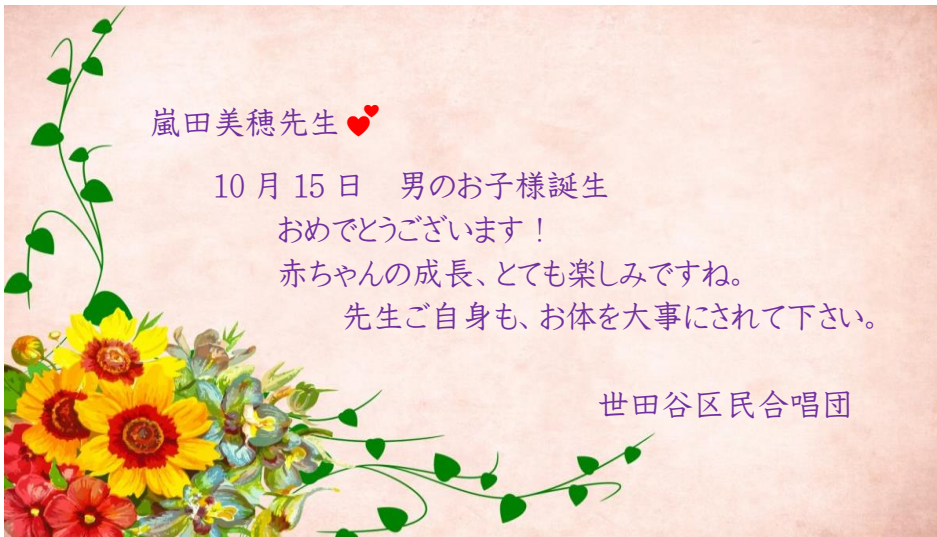
10月15日 男のお子様誕生

おめでとうございます！

赤ちゃんの成長、とても楽しみです。

先生ご自身も、お体を大事にされて下さい。

世田谷区民合唱団





ピアノ伴奏をして下さった、西谷先生と尾島先生からのお言葉です



《定期演奏会を終えて》

ピアニスト 西谷幸子

第32回定期演奏会を無事に終了することができ、皆様にはほっとなさっていることと思います。

2020年、2021年とコロナによる中止、2022年は演奏形態を大きく変えた舞台、去年は舞台上での演奏でしたが、今回はリニューアル後の世田谷区民会館で格別の想いで舞台に立たれたことと存じます。

第1部のフォーレは演奏時間も長く、またフランス音楽特有の和声や響きに神経を使われたことと思います。同じフォルテやピアノでもペーターベンやブラームスとは違った繊細な強弱の表現が必要とされます。来年のオーケストラとの共演では、ピアノだけでは出せない、いろいろな楽器の音色が新鮮に感じられるのではないのでしょうか。

第2部からは、とても生き生きと演奏されて、楽しさが伝わってまいりました。昨年からのピアノ連弾にのせて舞台に入場するシーンは、皆様とお互いの息がぴったり合っているのか絶妙なタイミングでのパフォーマンスだったと思います。

この演奏会の準備や進行に携わってくださった皆様に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



ピアニスト 尾島紫穂

先日の定期演奏会、お疲れさまでした。大勢のお客さまにご来場いただき、さらに会場はリニューアルオープン後初めての世田谷区民会館とあって、大盛況の演奏会になりました。

ご一緒させていただいた第2部、第3部ともに魅力的な作品でした。毎週の練習や特別練習、東京都の合唱祭の本番も経て、音楽的に集中した演奏となり、皆さまの表現がしっかりと客席に届いていたと思います。

私個人としては、世田谷区民会館といえば中学校の合唱コンクールや成人式を行った思い出の詰まった馴染みの深い場所でしたので、ここの舞台に立ち、地元の皆さまの声と合わせられることに幸せを噛み締めながら演奏しておりました。

来年2月のフォーレの本番に向けた練習や新しい曲の練習も、皆様と一緒に楽しみながらまた取り組んでいけたらと思っています。引き続きどうぞよろしくお願い致します♪





杉山先生

坂本先生



尾島先生 嵐田先生 西谷先生



ステージに上がった方の《感想》



Soprano 浅見公子

私は入団して半年ですので初めて世田谷区民合唱団演奏会参加となりました。
どなたも存じ上げない中、勝手も分からない私に優しく温かい言葉をかけて頂き色々教えて下さった皆さまに感謝申し上げます。

また運営委員をお引き受け頂いていらっしゃる皆さまにも感謝申し上げます。

皆様のお陰で大変良い演奏会だったと友人たちに言ってもらえました。

さて、私事ですが私はしばらく歌っていなかった事もあり、フォーレのレクイエムなら以前歌った事もあるから良いかなと言うお気楽な気持ちで入団したので、曲目の多さに驚きました。

レクイエムだけでも大変だと思いますが、日本の曲も沢山。私は日本の曲の合唱は殆ど経験がありません。

何事も経験と思い練習に参加して歌っている内に歌いなれる曲もあれば、私の中でいつまで経ってもしっくりこない曲もあり、これはもう皆さんの中でうやむやに過ごそうかと思っていた矢先、坂本先生から何とソロを歌うご指名を頂きました。ビックリ!!

入団半年の私でこんな晴れがましいチャンスを受けて良いのかしらと思いましたが、このような事は初めて、二度とない事かも知れないと思いチャレンジする事にしました。私のソロは 4 小節でしたので、心新たに自宅練習と言っても発声に気を付け響きを大切にする事位。

短いとは言えソロを歌う事を友人たちに知らせ聴いてもらう事が出来て嬉しく思っています。

初めての世田谷区民ホール、初参加の世田谷区民合唱団演奏会、初のソロ、初ユニフォーム、初めてづくしの私の演奏会は無事終了しました。そして私にとって次は初昭和女子大学人見記念講堂です。これからもよろしくお願いします。





Soprano 葛西裕子

今年も、定期演奏会を無事に終えることができ、ホッとしております。2月の人見記念講堂に続き、新装された世田谷区民会館という、素晴らしい環境で歌うことのできる幸せを感じました。

第一部フォーレのレクイエムは、歌うのも聴くのも初めてで、とてもハードルが高かったのですが、少しずつ譜読みが進むにつれ、美しい旋律に魅了されていきました。ただ、全体的に曲数も多く、なかなか全曲同じように練習して本番に臨む事が出来ませんでした。名曲コンサートまでにきちんと準備したいです。

第二部は、どれも初めての曲でしたが、「群青」は、初見の時に思いがけず涙が出てきました。どの曲もそれぞれに感情を込めやすい素敵な曲で、だからこそ、時には冷静さを念頭に歌うことの大切さを知りました。また、フォルテでどうしても怒鳴りがちになってしまう発声を、何度も反省しながら、なるべく上をめがけた発声をテーマに気をつけました。フォルテで前方向に押さない自己採点は・・・60 点位！？今後も大きな課題となりそうです。

第三部は、誰もが知る日本の歌・・・なのですが、実は知らない歌も多く、また新しい歌との出会いとなりました。「ペチカ」では、ソロの大役もいただき、「大人の発声」を目指し、個人的に改めて発声の基本を見直す良い機会でもありました。本番では、満点の発声はできませんでしたが、とても良い経験をさせていただきました。ご指導くださった先生、思うようにいかず苦しむ私に数々のアドバイスやアイデアを下くださった先輩方に、心より感謝いたします。また、今年は裏方の仕事もいくつかさせていただき、去年は知る由もなかった、ステージまでの準備の歩みも知ることができました。楽屋周辺の作りが複雑で、初めはそれだけで不安でしたが、何度も運営委員会内の皆さんと一緒に確認しあい、本番を迎えることが出来ました。

広報委員として、当日の団員募集活動にはあまり貢献できなかったのですが、団員募集チラシの作成を担当し、皆さまにお手に取っていただけて嬉しかったです。

書記として、最も気にして工夫したことは、今回が区民会館改装後、初の演奏会だったので、動線のどこに、どんな貼り紙があれば、団員の皆さんがわかりやすいか、ということでした。また、嬉しかったことは、作成したお客様アンケートの裏面の「入団・見学希望者記入欄」に多くの方がご記入くださったことでした。

この経験を励みに、2月の名曲コンサートへ向け、気持ちも新たに練習していきたいです。

この度は、お疲れ様でした！！



Soprano 三藤由美

第 32 回定期演奏会お疲れ様でした。

諸先生方、いつもの確なご指導と、実践での素晴らしい歌唱、本番中に聞き惚れてしまいました。

今回の定演も仲々の盛り沢山のステージでした。私はまだ 2 回目の参加ですが、入団以前に何度か客席で聴かせていただいております。

思うにどんな合唱団でも一回の演奏会では休憩を含め 120 分位は要するので、歌っている時間は 80 分位でしょうか。今回の定演はもう少し長かったようですが、この間ずっと声を出している訳ではありませんが、ステージ上で直立で立ち続け、口が渇く、ヒザが突っ張る、背中が固まるなどを抑えて f、ff、P、PP、<、>、etc. をご指示に近く歌うのが以前よりやや大変に感じました(3 ステで脇腹が一瞬つりました)。前期高齢者真っ只中の私がこれなのに、諸先輩方の頑張り、凄いです。今後は歌い続けるために喉、肺、腹筋他を鍛えていかねばと思いました。ただし無理のないようにですが。

私は 3 ステで 7 小節のソロを承り(!)、やはり “ 失敗したら団員の方に申し訳ない ” という思いがありました。5～6 年前からヘタのヨコ好きで個人でもイタリアや日本の歌曲を歌っておりますが、その発表会でも 70 席のホール、世田谷区民会館のような大きな所で一人で声を出した事はありません。そこで、今回は広い客席に向かって声を出そうと思わず、指揮の坂本先生の手動きのみを見て歌いました。これはソロに慣れておらず、アガるのを心配される方にいい方法だと思います。次回どなたか(映えある標的になった方!)是非お試しください。

今回は改装なった音響の良いホールで歌うことができ、貴重な思い出になりました。来年は全員でどのような歌声を響かせるのか楽しみです。歌はあなたの(私の)大切な友達…ですから。





Soprano 菊地順子

第32回定期演奏会を終えて

団員の皆様、誠にお疲れ様でした。新しくなった区民会館で行われる定演が心配で大した能力もないのに演奏委員長を引き受けてしまいました。11月に世田谷区合唱連盟の合唱祭が36団体で行われます。この運営にも携わっていることもありホールをより理解したいという気持ちでした。

内部の使い勝手は少し疑問もありました。セキュリティカードの存在もあり、鈴木副委員長も大変工夫されて、本当にお世話になりました。ですが新しくなったホールの響きの良さに我々の演奏も相当助けられたと思います。またこれから度々の練習もこのホールで出来ることに感謝です。

私はチラシの挟み込みを担当いたしました。皆さんがそれぞれ自主的に積極的に働き一致団結して取り組む姿勢に、定演成功への意気込みを感じました。

しかしながら、実際の演奏はあまり良い結果ではなかったようです。フォーレ・レクイエムの始まりの大事な場面のソプラノの不安定さ、出しにくい音程とはいえこれは失敗だったと思います。何年か前に演奏した経験を生かすことができなかった、より進んだフォーレにすることができなかったと悔やまれます。

過去に第九を指揮していただいた石丸寛先生が言われた言葉を思い出します。

「あなた方は100人いれば100分の1の演奏をすればよいと思いませんか？

あなた方一人一人は確立した演奏者でなければならないのですよ。」と。

<一人で歌ってみてください。>

自分はどのような声で歌っているのか、録音してよく聴いてどこがいいのか悪いのか考える、直す、考える。また指導者に聞いてもらって教えを乞う、これをしなければより良いところに向かえない。自分流に歌って癖がついてしまい、その癖を取るのに大変苦勞するという話も聞いたことがあります。

<ソロの反省>

ところで、ソロを歌わせていただいた自己反省ですが、入りのテンポが速い、「ペチカ」の「カ」で伸ばす「ア」の音が低い、「火の粉パチパチ」の「チ」で伸ばすときに口が横になって音が下がる、そして最後の「カ」の「ア」の母音の時低い。しかも皆さんを背にして歌うなどとても無理、と反省ばかりです。きっと皆様もお気づきでだったでしょう。でも今回は頼もしい新人が出てきてくれて本当に良かった！ 老兵は去りゆくのみ、です。



Alto 長田弘美

今回の定期演奏会は真新しい世田谷区民会館のホールで歌うと言う事で、いつもの演奏会より特別の思いがありました。

神保さんによれば、いつもは配ったチケットの七割の入りだが、今回はホールが新しくなったので…。

満席を期待して会場を眺めるとやはり七割位かと少々ガッカリも。曲数が多く、練習不足と老化現象（老眼で字が読みづらい、記憶力と気力の低下、高い声が出づらい、強化練習もあり疲労状態等）で正直、万全ではない状態で舞台に立ちました。

日本の歌は、フライングなどもありましたが、やはり本番が今までで一番良かったと思います。特に「群青」が観客の方々の心に響いたのではないかと思います。レクイエムは坂本先生のおっしゃる通りまだまだ練習が必要かと。公演終了後のロビーで知らない方にとても良かったと褒められました。半分お世辞でも褒められると嬉しいものです。

とにかく本番が終わりほっとしています。また次回の公演に向けて歌を楽しみながら歌って行きたいと思っています。





「定演を終えて」

Alto 奥谷麻子

終わった～

達成感に思わず笑みがこぼれる

あそこを失敗した、もっとこうだったらと沢山の後悔があるものの…

入団して7年余り

音楽とは授業で中学まで、合唱とも無縁だったが、小2の時に、北区の合唱発表会のようなものに出演した時の感動が忘れられず

定年退職後にやりたい事を書き出して「合唱団に入団する」と軽い気持ちで書き

検索に出てきた当合唱団に入団させていただいた

5月入団の為、練習は中盤に至っており、ただでさえ初めてのこと

ドイツ語、イタリア語の曲には参りました

何度もついていけないから、辞めようと思いました

今回の定演後、辞めないでよかった、続けていてよかったと心から思います

両親が亡くなり、役割から離れ、年齢からくる言いようのない寂しさを

歌っている時は忘れさせてもらえる

「うたはあなたの大切な友達、いつもそばにいる大切な友達だから」

3つ目のレクイエムは、最初はいつもなに～これ？と好きになれずにいましたが

歌い込んでいくうちに、理屈でなく引き込まれていく

心が癒されていく

これが100年以上も歌い継がれているレクイエムの力なのか、と

こんな経験をさせていただけたのも、読み、音取りから手取り足取り丁寧に根気よく熱意を持って、ご指導してくださっている坂本先生はじめとする、先生方のお陰です

区民合唱団という特別な団の為、私のような全くの未経験者にもわかるようにご指導くださるのは、さぞかしご苦労とストレスがおありのこととお察いたします

杉山先生、嵐田先生のソロに心震え、西谷先生と尾島先生のピアノ演奏の美しい旋律になんと貴重で贅沢な経験、と感動しました

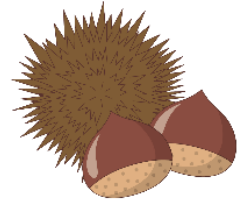
改めて御礼申し上げます

それと続けられた大きな要因は飲みニケーションにお付き合いくださっているお友達と先輩方の存在です

いつも感謝しています

これからもよろしくお願いします

歌えば過去の記憶も甦る、歌とずっと友達でいたいです





Tenor 大野賢一

「指揮者を見ないで！」とか「歌詞に意味を込めないで！」とか
リハーサルで、タクトを振りながら、そう叱責することがあった。
ただ従っている状態に安住せず、自らの頭と心で思考せよというメッセージだった。

この文章は、東京混声合唱団の創成を指導し、全国のプロ・アマチュアの指導に奔走して
先月お亡くなりになった、合唱指揮者の田中信昭さんを悼む新聞記事からの引用です。
プロとアマチュアの違いはありますが、なかなか重いメッセージだと思います。

定演では「弱くきれいな高音を響かせるのは本当に難しい」と再認識させられました。
来年二月の名曲コンサートでは、少しでもレベルアップして、
「各団員が自分の思いを込めたレクイエム」を演奏したいものです。



Base 富野隆司

フォーレのレクイエムは dolce、3 拍子が多用された、やさしく美しいメロディー、ハーモニーで気持ちよく歌うことができました。

と、言いたいところですが、男声が4つに分かれるところが多く、練習の時は、私（バリトン）の右隣はテノール2、左隣はバスと両隣から違う音が聞こえてきて、しかも、時々バリトンがバスと一緒にになったり、テノールと一緒にになったりで、つられているのか、合っているのか自信がなくドキドキしながら歌っていました。

2月の名曲コンサートまでには気持ちよく歌えるようになれるように、しっかり音取音源を聞き、譜面も読み込んでいきたいと思います。

コロナの曲は日本語・口語なので、曲の世界観・情景を思い浮かべながら歌うことができました。特に「群青」は大学進学で故郷を離れた頃のことを思い出して涙腺が緩くなり、声が出なくなることが何度かありました。来年の「みえないことづけ」も楽しみです。

このような立派な曲を指導して下さった先生方、演奏会準備に奔走頂いた役員・係の皆様、音取音源を作成下さった皆様ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。





■ 世田谷区長 保坂 展人（ほさか のぶと）



世田谷区民合唱団第32回定期演奏会の開催、誠におめでとうございます。設立以来、定期演奏会やせたがや名曲コンサートなどで、多くの区民に素晴らしい歌声をお届けいただいていることに深く感謝申し上げます。

今日は、三大レクイエムのひとつであるフォーレの作品からコロナ禍に希望の光を灯した作品、日本の抒情曲まで、多彩な曲目を演奏されると伺っております。団員の皆様が重ねてこられた練習の成果を存分に発揮され、素晴らしい演奏会となりますことを期待しております。

さて、区では本年3月に策定した「第4期文化・芸術振興計画」で「誰もが文化・芸術を楽しめるまち 世田谷」を将来像に掲げました。この実現に向け、区の新たな文化・芸術の拠点と位置づけました世田谷区民会館での音楽事業等の実施をはじめ、区民が身近なところで気軽に文化・芸術に触れ、体験できる様々な取り組みを進めてまいります。

結びに、熱心にご指導いただきました音楽監督・指揮の坂本秀明様、指揮の杉山範雄様、お力添え賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げ、世田谷区民合唱団のますますのご活躍とさらなるご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



編集後記



区民会館内はどこもかしこも真新しい香りが漂い、ステージの天井はおそろしく高く、音響が良く、このような素晴らしいホールでの演奏に恥じないように歌おうと、今回の定演はいつも以上に身が引き締まる思いで臨みました。寄稿いただいた皆さまの感想を読ませていただき、すでに懐かしく思い始めている当日の臨場感が甦って、緊張をあらたに感じています。この緊張感を忘れることなく、次回フォーレの暗譜に向けて練習に励みたいと思います。



飯島就子



☆敬称略させていただきました☆

Gabriel Faure “Requiem” Op. 48

第1曲 Introitus et Kyrie (入祭唱とキリエ)

主よ、永遠の休息を彼らに与え絶えざる光を彼らの上に照らしたまえ。
神よ、主の賛美をふさわしく歌うのは、シオンにおいてである。
そして誓いはエルサレムにてあなたに返される。私の祈りを聴き給え。
すべての肉体のむかうべきもの<死すべきもの>はみな、主にかえる。
主よ、憐れみ給え。キリストよ、憐れみ給え。
(3回ずつ唱える＝三位一体の神をたたえるため)

第2曲 Offertorium (奉献唱)

おお、栄光の王、主イエス・キリストよ。
死者の靈魂を救い出し、地獄の刑罰と底知れない深い淵とから救い出し、
獅子の口から解き放ちたまえ。
彼らを冥府(よみ)に落とさず、闇に投げ給うな。
主よ、称讃の生贄と祈りとを、我らは主に捧げ奉る。
本日記念する靈魂のためにこれを受け入れたまえ。
主よ、かれらを死から生命へと移したまえ。
主がその昔アブラハムとその子孫とに約束し給うたその生命。アーメン

第3曲 Sanctus (感謝の讃歌)

聖なるかな 聖なるかな 聖なるかな、万軍の神なる主。
主の栄光は天地に満つ。天のいと高き所にホザンナ。<称賛を>

第4曲 Pie Jesu (慈悲深いイエス)

主よ、やさしきイエスよ、彼らにやすみを与え給え。彼らに永遠の休息を与え給え。

第5曲 Agnus Dei (神の子羊)

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、彼らに永遠の休息を与え給え。
主よ、永遠の光明を(彼らの上)に輝かせ給え。
とこしえに、あなたの聖人らとともに慈悲深き主よ。
主よ、永遠の休息をかれらに与え、たえざる光を彼らに照らし給え。

第6曲 Libera me (私を解き放ちたまえ)

主よ、私を永遠の死から解放し給え。かの恐ろしい日に。
天地がふるえうごくその日。主が、この世を火で裁きに来給う時
私は、来るべき裁きと怒りとをもって震えおののく。
その日こそ怒りの日、災いの日、悩みの日。その日こそ大いなる悲嘆の日
主よ、永遠の休息を彼らに与え、たえざる光を彼らの上に照らし給え。

第7曲 In Paradisum (天国にて)

天使らが、あなたを天国に連れて行くように。
あなたがそこに着くとき、殉教者たちがあなたを出迎えてエルサレムの聖なる町に誘うように。
天使のむれがあなたを出迎えかつて、貧しいラザロの入ったその永遠の休みに導かんことを。